

花の色鳥のこゑまで時にあふ春の宮。ぬぞ光ことなる。

〔神皇正統記後村よつちのどの卯の年延元四年三月、また吉野へいらせたまふ、秋八月中の五日、ゆづりをうけて天日嗣をつたへおはします。元弘日記裏書ニ、延元四年八月、

〔太平記二十〕南帝受禪事

同延元四年十月三日、南方紀傳ニ、大神宮へ奉幣使ヲ下サレ、第七ノ宮、後村上天子ノ位ニ即セ給フ、略洛外山中ノ皇居野吉ノ事、可周備ニアラザレバ、如形三種神器ヲ拜セラレタル計ニテ、新帝位ニ即セ給フ、

〔鳩嶺雜事記〕應安元年即正平廿三年也三月十一日、住吉御所崩御、御ニ、四十二トシ、南方紀傳ニ、四十三トスレド、元弘日記裏書、延元四年條ニ、義良親王踐祚、十二ノ文ニ合ハザレバ、蓋シ誤ナラン、

〔吾本皇胤紹運錄〕義良親王後村上

寛成親王於南方自立、號長慶院、

熙成王自吉野降後、蒙太上天、皇尊號、號後龜山院、

〔續本朝通鑑五十八〕應安元年南朝正平三年三月辛巳、南帝義良崩於住吉行宮、中群臣奉遺詔、立皇子

寛成嗣位、藤久實爲關白、傳稱、後村上皇帝、守後醍醐帝遺詔、終身於皇位、無禪讓之儀、

〔續本朝通鑑五十九〕應安六年南朝文二年八月辛未、南帝讓位於其弟熙成王、授三種神器、而避去吉野、

據應安略記、然其事不詳、問、未知有何故而然、

〔花營三代記〕應安六年八月二日、南方奉讓位於御舍弟宮之間、相副三種神器、沒落吉野云云、

○按ズルニ、大日本史ニハ、花營三代記ノ文ニ據リ、文中二年即北朝ノ應安六年ニ、長慶天皇ヨリ後龜山天皇ニ讓位リアント爲シ、南朝ヲ四代ト爲シ、塙保己一ノ花咲松ニハ、新葉和歌集ニ